

「日々の理科」(第 3865 号) 2025, -3, -7

「東京近郊日帰り旅行 (10)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

実は浜金谷駅は、私が所持していた「休日おでかけパス」の自由乗降区間の範囲外の駅です。自由に乗り降りできるのは、木更津の一つ先の君津駅までなのです。君津駅では降りられなかったため、私は浜金谷駅で乗り越し分を精算する予定でしたが、駅員さんがいません。「駅員業務時間は 16:30 までです」と書いてあります。自動精算機もなく、このまま駅を出れば君津～浜金谷間が「無賃乗車」になってしまいます。

JR 規則の範囲内で、できるだけ得して旅行をするのは楽しいのですが、キセル乗車や無賃乗車は絶対にしないことにしています。鉄道会社をだますことになり、旅行の気分も害するからです。幸いこの駅には「きっぷの自動販売機」は設置されていたので、私は一計を案じて、「浜金谷→君津」の乗車券を買うことにしました。これで実質的に乗り越し分の運賃を支払ったことになり、安心して旅行を続けられました。



浜金谷駅は、古風な木造平屋の駅舎で、昭和の国鉄時代に建てられた典型的な田舎の駅舎って感じでした。屋根瓦が水色なのが、何となく海辺の駅を思わせます。かつては特急「さざなみ号」も停車し、指定券販売の為に「みどりの窓口」もあったのですが、特急列車の運転区間短縮に合わせて、現在は時間短縮の「業務委託駅」に格下げになってしまいました。

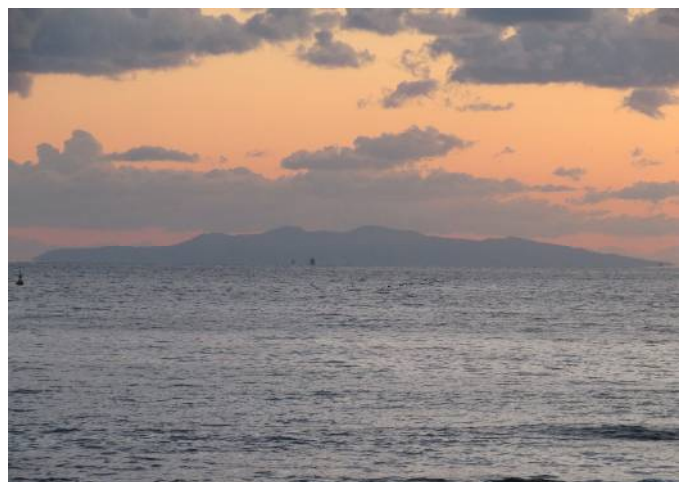
こんな海辺の寒駅で下車したのには理由があります。ここから、三浦半島の久里浜まで行けるフェリーが出ているからです。このフェリーに乗ることも、当初の計画には全くなかった選択肢でした。



浜金谷駅からフェリー乗り場までは、ゆっくり歩いても 10 分ほどです。船の出発まで 1 時間近くあったので、夕暮れの海を見ながら海沿いを歩きました。



遠くには三浦半島やその向こうの山々も見えます。三浦半島と房総半島にはさまれた「浦賀水道」は、太平洋から東京港や横浜港に入る、海路になっています。日本で最も重要な航路に位置付けられ、この日も大小さまざまな船舶が行きかかっていました。



遠くに霞んで見える島影は「伊豆大島」です。過去には房総半島から伊豆大島に直行する航路もあったのですが、現在定期航路はありません。地理的には竹芝（東京）よりも近いのに、残念ですね。

金谷～久里浜は「東京湾フェリー」という会社が運行しています。フェリーですから、もちろん自家用車、トラック、バスなども航送可能です。この日は日曜日だったので、自動車が混んでいて「全部載せきません」というアナウンスが流れていました。

東京湾フェリーは「東京湾アクアライン」の開通と「通行料金の大幅値下げ」の影響で業績が悪化し、経営危機に陥ったことがありました。かつて3隻だった船舶も、現在は2隻だけで運行されています。ただ、国道16号線（東京環状線）の「海上部分」も担っている重要航路でもあるので、恐らく今後も廃止されることはないでしょう。



自動車が長蛇の列だったので、「人間だけ」で乗船するなんて私ぐらいだろう・・・と思っていたら、結構たくさんの人が並んでいました。ほとんどは浜金谷駅まで電車で来た人でしょう。



車両もたくさん載せられる船なので、船体は結構大きく、伊豆諸島方面に行く「東海汽船」の貨客船と同じぐらいに見えました。「かなや丸」という船です。船の名称にはなぜ「丸」がつくのでしょうか？



客室には、前向きにシートがズラリと並んでいます。昔の青函連絡船の普通船室に似ています。座り心地は、横須賀線のグリーン車と同じような感じでした。海の夜景がよく見えるように、室内は減光されていました。

東京湾フェリー		[金谷]	
片道	金谷 → 久里浜	乗船券	
発券日	2025/02/23	No	1-56874
区分	クーポン	車両	
車両運賃	0円	車長	
旅客運賃	1,000円	大人	1
計	1,000円	小人	0
		学団	0

キリトリ無効

00000010000000*

フェリーには自動車はなくても「人間だけ」でも乗れます。ちょうど1000円でした。



フェリーターミナルの売店は思いのほか広く、品ぞろえも広範囲で、いかにも観光地の売店って雰囲気でした。「房総半島の特産品なら何でも売ってるぞーい！」って感じでした。私は浜金谷駅と海辺でのんびりしすぎて、乗船まであと10分ぐらいしかなかったもので、ゆっくり見られませんでした。海産物などちょっと気になる商品もあったのですが、何も買えなかったもので、次回は30分前には来ようと思いました。